

民生委員制度創設100周年記念

岩手県民生委員児童委員大会開催

岩手県民生委員児童委員大会は8月24日に岩手県民会館で開催(主催:岩手県民生委員児童委員協議会・岩手県社会福祉協議会)され、社会福祉関係者等、約1,500名が参加しました。

式典では、民生委員児童委員物故者慰霊黙祷が捧げられた後、永年の功績を称え771名が表彰されました。記念講演では「地域の絆、みんなの笑顔」笑顔を分かち合うコミュニケーションと心の健康について」と題し、こころ元氣配達人こころ元氣研究所所長鎌田敏氏の講演が行われました。

全国民生委員児童委員連合会が、これからの民生委員・児童委員活動に関するスローガン「支え合う 住みよい社会 地域から」を制定したなかで、大会宣言では、一、「民生委員児童委員信条」を胸に、常に地域住民の立場に立った活動を行います



大会には社会福祉関係者等、約1,500名が参加しました

一、地域共生社会の実現に向けて、地域のつながり、地域の力を高めるために取り組みます

一、さまざまな課題を抱えた人々を支えるために、幅広い関係者、関係機関との連携・協働を一層進めます

一、我が国の未来を担う子供たちが健やかに育つことができるよう、子育てを応援する地域づくりに取り組みます

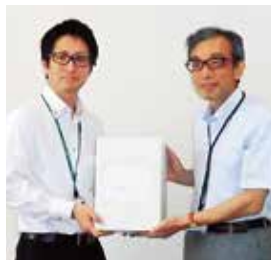
一、東日本大震災の記憶を風化させることなく、地震津波や台風などの災害で深く傷ついた方々や、そこで活動する民生委員・児童委員への支援を引き続き行うとともに、災害に備えた地域づくりに取り組みます

一、民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくため、住民にとってより身近な存在となるよう周知活動に取り組み、その理解を広げます

民生委員の歌「花咲く郷土」を合唱し、閉会しました。

岩手銀行労働組合
使用済切手を寄贈

岩手銀行労働組合(加入者1,077名)の佐々木厚志執行委員長と澤口達也書記長は、7月25日に岩手県社会福祉協議会を訪れ、使用済切手2,655グラム分を寄贈しました。同労組は2003年度からいわて車いすフレンズ活動を支援しており、使用済切手等の寄贈は今回で15回目となります。



寄贈する佐々木執行委員長(左)

佐々木執行委員長からは「車いすフレンズ活動に共感している。使用済切手が活動の一助になればうれし」と挨拶いただきました。

使用済切手は日本社会福祉弘済会を通じて換金され、車いす(県内の工業高校生らが中古の車いすを修理し、海外に送る活動)の輸送費(国内の空港や港までの送料)に役立てられます。これまでに東南アジア諸国などに贈られた車いすは787台となり、今年度は30台の車いすを東南アジア諸国に送る予定です。

全日通労働組合岩手支部
ユーティリティバッグを寄贈

全日通労働組合(加入者24,000名)岩手支部の柴谷正孝執行委員長と山岸伸行書記長は、7月26日に岩手県社会福祉協議会を訪れ、ユーティリティバッグ900枚を寄贈しました。バッグは7月18~19日に花巻市で開催された全国大会にあわせ製作され、「三陸復興」と記載されています。柴谷執行委員長は「全日通労働組合は、『東日本大震災を風化させない取組み』を運動方針にしており、今後も復興支援に携ってきたい」と挨拶されました。



左から山岸書記長、柴谷執行委員長、県社協根子専務理事

皆様のご支援
ありがとうございました

東日本大震災・台風10号災害復興支援などのため、ご支援いただき、感謝申し上げます。[7月1日~8月31日]
株式会社ブリッジ(2件) 134,053円
名郷根法育(1件)1,000円
名郷根和博(1件)1,000円
名郷根博明(1件)1,000円